

令和8年度富山県公共事業再評価調書

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
10	河川改修費			オ ヤ ベガワ ヤチガワ 小矢部川水系谷内川			ヨツカイチ フクオカマチアカマル 高岡市四日市～福岡町赤丸		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R8 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
H14	R15 (R11)	25年	7年	5回目	7,600 (6,300)	4,910	55	2,635	65.3%
全体計画									
延長 3,150m 護岸工 6,300m 築堤工 6,300m									

事業費の単位は百万円、下段()書きは前回再評価時の数値である

事業概要の説明

谷内川は、高岡市北西部を流れる一級河川である。
小矢部川合流点より全川にわたり河川断面が狭小で、流路も湾曲しており、平成10年9月の台風に伴う豪雨では、家屋8戸、農地等55haの浸水被害が発生している。事業着手後においても、平成23年、平成24年、平成25年、令和7年に浸水被害が発生している。特に下流域においては、洪水時の小矢部川の水位の影響を受け浸水被害が拡大されるため、抜本的な治水対策が必要である。こうしたことから、浸水被害を防止するために、河川改修を行うものである。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
時間雨量50mmを越える降雨実績(県内、10年間)	回	13 (H3～H12)	39 (H28～R7)	増加
浸水被害履歴 (浸水戸数)	—	浸水55ha、床下浸水8戸 (H10.9.22.)	浸水0.3ha、床下浸水2戸 (H23.8.26) 浸水53ha、床下浸水1戸 (H24.7.21) 浸水23ha、床下浸水0戸 (H25.8.23) 浸水0.5ha、床下浸水1戸 (R7.8.7)	新たな浸水被害あり
沿川地区(石堤地区)人口	人	918 (H12)	680 (R8.3)	25.9%減 (△238人)

自己評価内容

・県内における時間50mmを超えるゲリラ豪雨の発生回数は事業着手時に比べ3倍と大きく増加している。
・谷内川流域においては、事業着手後に、平成23年8月の豪雨で床下浸水2戸、平成24年7月の豪雨で床下浸水1戸、令和7年8月の豪雨で床下浸水1戸等の被害が発生している。

評価結果
事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益(B/C)	—	20.3 (H13算出)	9.0 (R8算出)	前回評価時 11.0 (R3算出)

数値化が困難な事業効果

- ・人的被害の軽減効果。
- ・交通途絶やライフライン切断による波及被害の軽減効果。
- ・事業により地域の安全性が高まり土地生産性の向上や宅地化など土地利用が高度化する効果。
- ・地域の安全性を高めることによって、地域の資産価値を高める効果。

自己評価内容							評価結果	
・主な便益は、被害軽減便益(世帯数330世帯、田畑198.9ha)となっている。 ・費用便益比は1.0を上回っており、事業投資効果がある。							事業継続が妥当	
3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和8年度まで整備済		未整備内容		令和8年度までの進捗率(%)	
主な工種(単位)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	事業量ベース	事業費ベース
築堤工 (m ³)	110,000	231	85,240	179	24,760	52	77.5%	77.5%
掘削工 (m ³)	113,200	103	61,200	55	52,000	48	54.1%	53.6%
護岸工 (m)	6,300	3,024	3,037	1,458	3,263	1,566	48.2%	48.2%
附帯工事	1式	2,654	—	1,896	—	758	—	71.4%
用地・補償	1式	1,101	—	1,047	—	54	—	95.1%
調査・設計	1式	487	—	328	—	159	—	67.4%
合計	—	7,600	—	4,963	—	2,637	—	65.3%
残事業内容および今後の整備見込								
・残事業の工種は、護岸工 3,263m、築堤工 24,760m ³ 、掘削工 52,000m ³ 、附帯工事(橋梁架替) 1橋 等。 ・現在進めている支障物件となっている上水道管について、所有者との協議の結果、不断水での施工が必要になることによる検討に時間を要しているが、今後上水道管移設設計を行い、移設が完了すれば今後の工事の進捗は早まるものと考えている。 ・今後は、小矢部川の背水影響がある区間までの整備を重点的に進めていく予定としている。								
自己評価内容							評価結果	
・地元の要望が強く、用地補償も順調に進んでいる。 ・事業期間が概ね2/3経過した段階で進捗率65.3%と、取水堰設置箇所のボーリングが発生する等によりやや遅れがみられるものの、付帯工事の市道4号橋(No.64市道橋)がR7年度で完成し、進捗は早まるものと考えている。 ・今後は市道4号橋上流の甚徳川の合流点を含む小矢部川からの背水影響のある区間までを重点的に整備を行っていく。							事業継続が妥当	
4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)								
自己評価内容							評価結果	
・河道掘削で生じる発生土を築堤の材料に流用するなどコスト縮減に努めている。							事業継続が妥当	

その他の視点

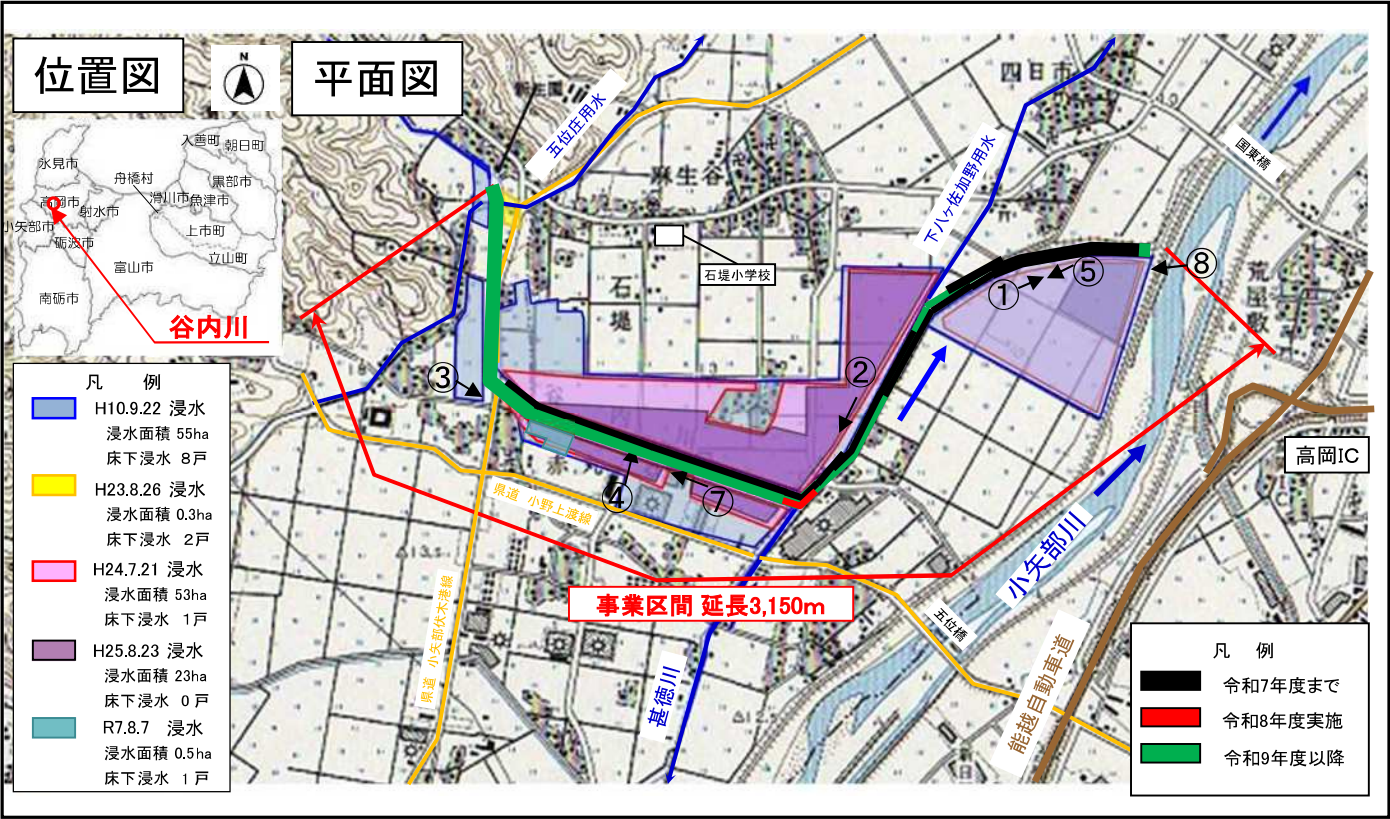
5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など	
<ul style="list-style-type: none"> ・谷内川河川改修促進期成同盟会や高岡市から整備促進の要望を受けている。 	
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響	
<ul style="list-style-type: none"> ・谷内川流域において、平成10年9月の豪雨で床下浸水8戸等の被害が発生したほか、平成23年、平成24年、平成25年、令和7年に浸水被害が発生し、周辺住民の生活に大きな支障をもたらしている。 ・ゲリラ豪雨も増加傾向にあり、治水安全度が向上しない場合、浸水被害が今後も発生すると予測される。 ・早急に治水安全度の向上を図り、沿川住民の不安を解消するため、できるだけ早期の完成を図る必要がある。 	

自己評価内容の総括

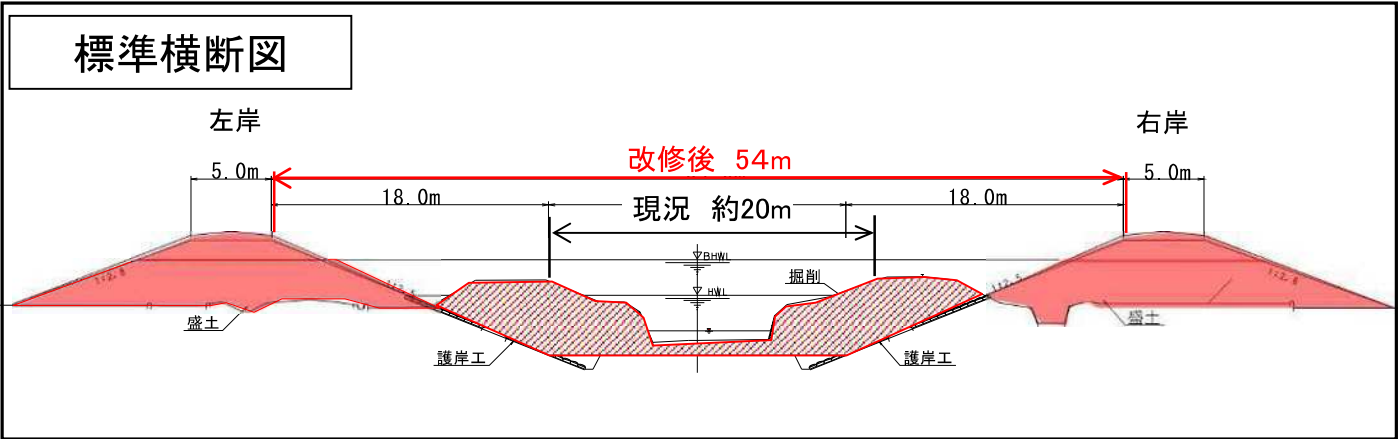
対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年にも浸水被害が発生しており、できるだけ早期の完成を図る必要がある。 ・費用便益比は1.0を上回っており、事業も順調に進捗している。 ・地元の要望も強く、早急に治水安全度の向上を図るため、事業の継続が必要。

様式3-1

10 河川改修費 小矢部川水系谷内川(高岡市四日市～福岡町赤丸)



主な工種 (全体事業量)	事業区間延長3,150m 上流 ← 左岸 右岸 → 下流	R8までの進捗率	
		事業量ベース	事業費ベース
用地・補償 (1式)		89.8%	95.1%
護岸工・築堤工 (6,300m)		75.9%	50.3%



様式3-2

整備前の状況



①



③



②



④

現況写真



⑤



⑦



⑥



⑧

令和8年度富山県公共事業再評価調書

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
16	砂防総合交付金事業(砂防)			ジズウガワスイケイ ニシタニガワ 神通川水系 西谷川			トヤマシ ヤマダ ナカムラ 富山市山田中村		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R8 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
R4	R13 (R8)	5年	5年	再	188	22	25	141	25.0%
全体計画									
透過型砂防堰堤1基(高さ7.0m 長さ22.0m) 渓流保全工 延長40.0m									

事業費の単位は百万円、下段()書きは事業着手時又は前回再評価時の数値である

事業概要の説明
<p>本溪流は土石流危険溪流に指定されており、平均溪床勾配が約1／8.9と急流である。床には流木や不安定な土砂が多量に堆積しているが、流域内には、土石流対策施設が整備されていないため、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。</p> <p>豪雨等により土砂災害が発生すると、下流の人家1戸、小・中学校、県道106m、市道103m、等に甚大被害を及ぼす恐れがあることから、砂防堰堤を整備し、土砂災害から住民の生命・財産及び重要交通網を守る必要がある。</p>

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時 (R4)	今回評価時 (R7)	備考
保全対象人家戸数	戸	1	1	変化なし
小・中学校	校	1	1	変化なし
保全対象道路(県道)	m	106	106	変化なし
保全対象道路(市道)	m	103	103	変化なし
山田地域人口	人	1304 (R4.4)	1153 (R8.2)	11.6%減少 (△151)

自己評価内容	評価結果
保全対象である人家戸数、小・中学校、道路(県道、その他道路)延長に変化は無く、砂防堰堤建設の重要性は高い。	事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時 (R4)	今回評価時 (R8)	備考
費用便益比(B/C)	—	7.26 (R4算出)	8.05 (R8算出)	

数値化が困難な事業効果

- ・保全対象になっている小・中学校は土砂災害特別警戒区域内のため、避難場所として使用できない状況にある。本事業を行うことで特別警戒区域を解除し、地域住民が利用できる避難場所の増設につながる効果が見込まれる。
- ・道路の途絶による災害時の医療活動・消防活動の遅延など間接被害を抑止する効果が見込まれる。
- ・土石流に対する安全度の向上に伴う地域住民の安心感向上効果が見込まれる。

自己評価内容	評価結果
<ul style="list-style-type: none">・費用便益比は1.0を上回っており、引き続き十分な投資効果が見込まれる。・本事業を行うことにより、交通途絶被害の抑止や土砂災害に対する下流住民および学校関係者の安全性向上が図られ、事業投資効果は高い。	事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和8年度まで整備済		未整備内容		令和8年度までの進捗率(%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
測量、設計(式)	1	22	1	22	0	0	100.0%	100.0%
用地補償(式)	1	25	1	25	0	0	100.0%	100.0%
溪流保全工(m)	40	40	0	0	40	40	0.0%	0.0%
堰堤工(基)	1	101	0	0	1	101	0.0%	0.0%
合計		188		47		141		25.0%

残事業内容および今後の整備見込

- ・これまでに詳細設計と用地測量が完了している。
- ・今年度は、用地買収、立木補償を予定している。
- ・事業は順調に進むものと考えており、今後は工事を順次進め、事業の進捗を図る。

自己評価内容	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに詳細設計と用地測量が完了している。 ・今年度は、用地買収、立木補償を予定している。 ・今後は工事を順次進め、事業の進捗を図る。 	事業継続が妥当

4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)

自己評価内容	評価結果
工事内容の経済比較を行い、最も経済的な鋼製スリット工法を採用している。	事業継続が妥当

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など

- ・地元より早期完成の要望を受けている。

6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響

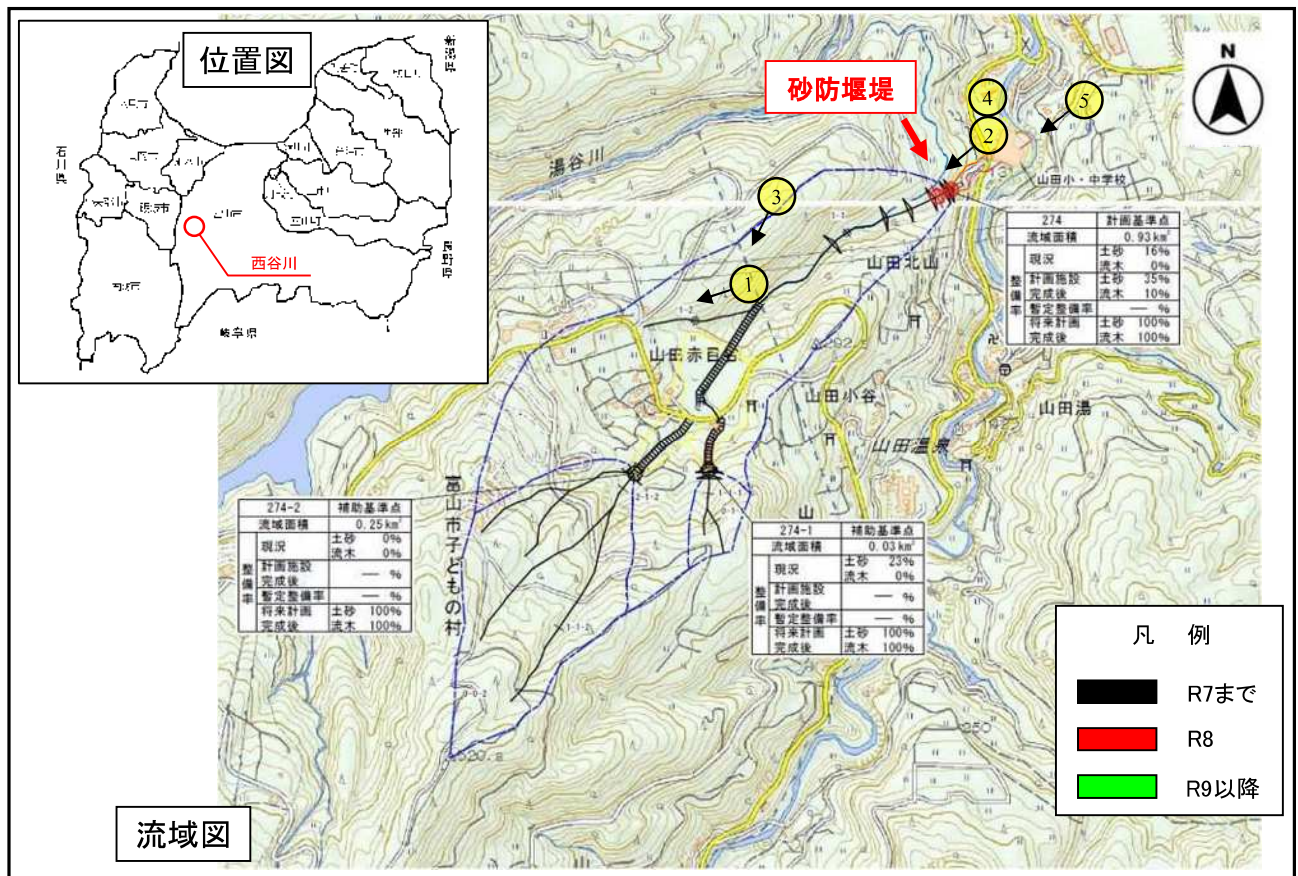
近年は、局所的な集中豪雨に降雨形態が変化してきている。このため、事業を着実に進め、下流に立地している人家、学校、及び道路等の保全をする必要がある。

自己評価内容の総括

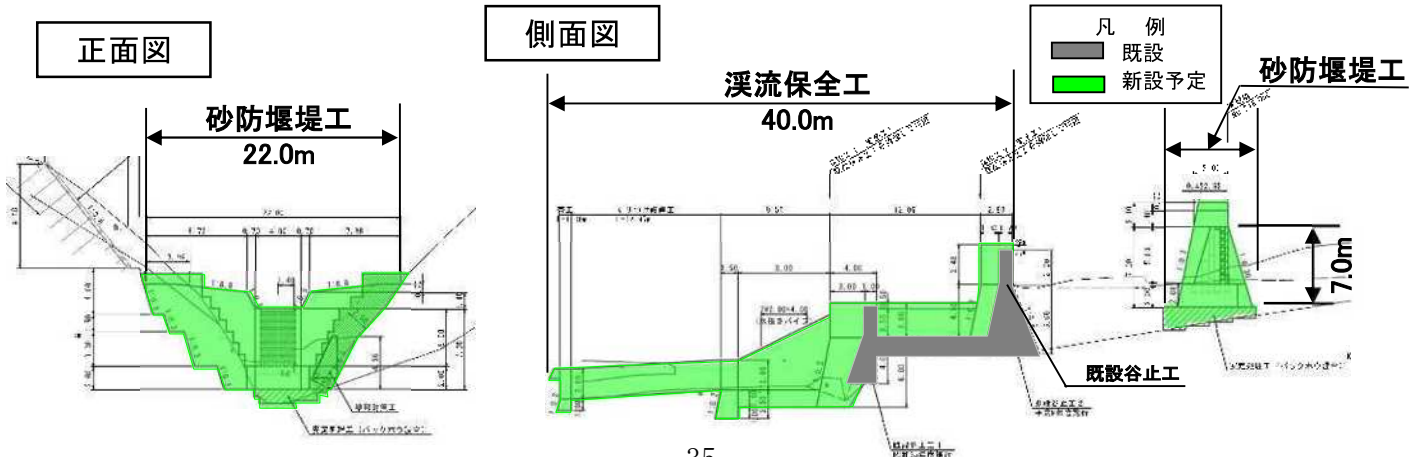
対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害から住民の生命、財産を守るため、当事業の実施が必要である。 ・費用便益比は1.0を上回っており、十分な投資効果が見込まれる。 ・市や地元地区は協力的であり、今後は事業が進捗していくと考えられる。 以上のことから、事業継続が必要である。

様式3-1

16 砂防総合交付金事業(砂防) 神通川水系西谷川 透過型砂防堰堤
(富山市山田中村)



主な工種 (全体事業量)	砂防堰堤工 1基 渓流保全工 延長40.0m	R8までの進捗率	
		事業量 ベース	事業費 ベース
測量設計		100%	100%
用地補償		100 %	100%
堰堤工 渓流保全工		0.0%	0.0%
全体		—	25.0%



整備前の状況

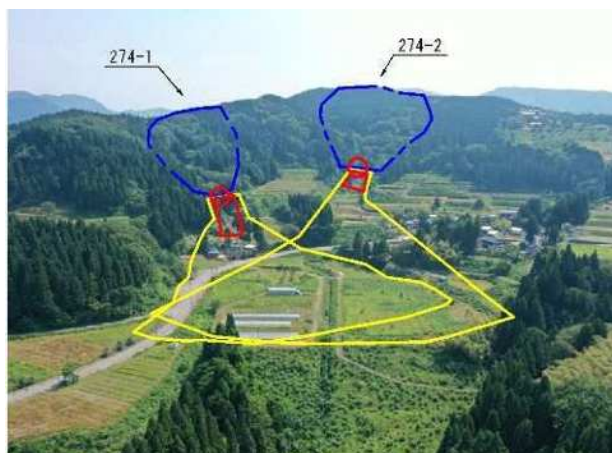
① 溪流荒廃状況(1次谷)



② 補助基準点(堰堤計画位置)



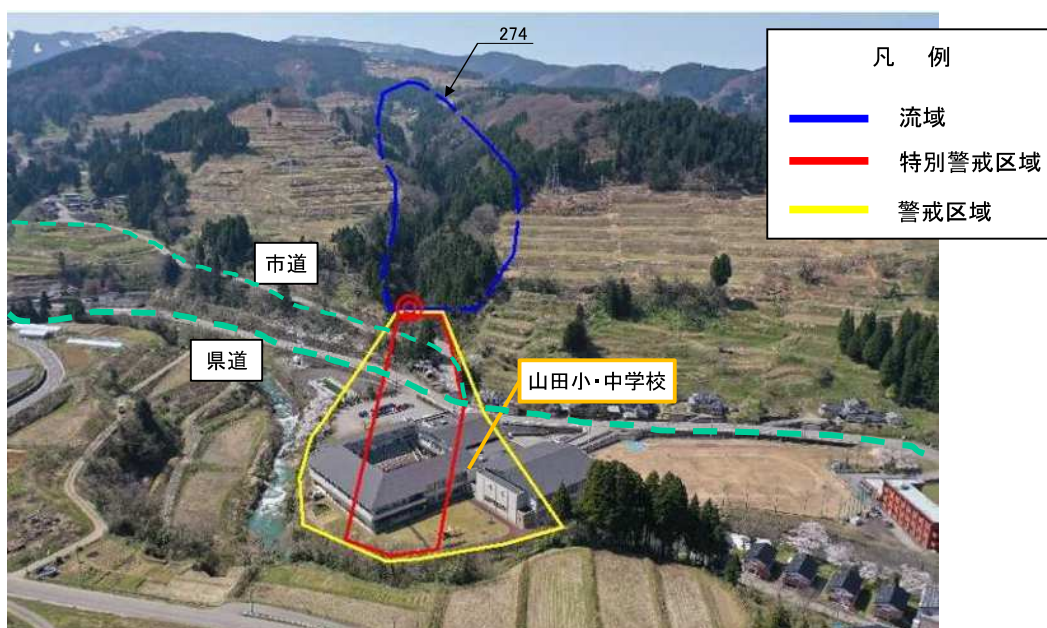
③ 274-1、274-2の流域全景(子溪流)



④ 計画基準点(既設谷止工)



⑤ 274の流域全景(堰堤設置予定の溪流)



令和8年度富山県公共事業再評価調書

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
24	街路事業			トシケイカドワロオイズミセン 都市計画道路大泉線			トヤマシホンゴウシン～ホンゴウマチ 富山市本郷新～本郷町		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R8 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
R4	R11	5年	3年	1回目	838	139	63	636	24.1%
全体計画									
歩道設置 延長590m、幅員16m									

事業費の単位は百万円、下段()書きは前回再評価時の数値である

事業概要の説明

- ・本路線は、都市計画道路草島東線や県道富山環状線など主要な環状道路を結ぶとともに、富山市の南北連絡強化にも資する重要な幹線道路である。
- ・周辺地域には商業施設が多数出店し、沿線には堀川南小学校があるが、車道幅員が狭く歩道が整備されていないことから、車両や自動車・歩行者が輻輳し危険な状態となっている。
- ・令和3年度通学路合同点検の結果、道路管理者による対策必要箇所として抽出されたこともふまえ、関係機関が実施する見守り活動の強化によるソフト面での対策に加え、車道の拡幅並びに歩道の新設を行い、通学路の安全を確保するものである。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
富山市人口	人	409,097 (R4.10)	401,456 (R7.10)	約1.9%減少 (△7,641)
交通量 一般県道三室荒屋富山線 事業区間	台/日	8,315 (H27センサス)	7,818 (R3センサス)	約6.0%減少 (△497)

自己評価内容

・事業着手時に比べ、富山市の人口及び現道区間の交通量は減少しているものの、周辺には人家が密集しており、学校等の公共施設などがあることから、人命及び財産を守るという観点から事業の重要性は高い。

評価結果

事業
継続
が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益比(B/C)	-	-	-	-

数値化が困難な事業効果

- ・富山市の南北連絡強化による地域の活性化。
- ・アクセス向上による、地域の経済活動の促進、雇用創出の拡大。
- ・歩道整備による歩行者の安全の確保。

自己評価内容	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度通学路合同点検の結果、道路管理者による対策必要箇所として抽出され、関係機関が実施する見守り活動の強化によるソフト面での対策に加え、道路拡幅による歩道設置を行い、通学路の安全を確保するものである。 ・用地補償は順調に進んでおり、今後の事業実施に向けて特に支障はなく、事業の継続が必要。 	事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込

全体計画			令和8年度まで整備済		未整備内容		令和8年度までの進捗率(%)	
主な工種(単位)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	数量	事業費(百万円)	事業量ベース	事業費ベース
測量設計(式)	1	54	－	51	－	3	－	94.3%
改良・舗装工事(m)	590	161	90	25	500	136	15.3%	15.5%
用地補償(m2)	3,767	590	530	117	3,237	473	14.1%	19.8%
事務費	－	33	－	9	－	24	－	－
合計		838		202		636		24.1%

残事業内容および今後の整備見込

- ・残事業の工種(事業費)は、測量設計(3百万円)、改良・舗装工 500m(136百万円)、用地補償(473百万円)。
- ・今後、用地補償を順次進め、工事に着手する。

自己評価内容	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の要望が強く、順次、用地補償の交渉を行っている。 ・事業は順調に進捗しており、今年度、工事に着手する予定としており、また引き続き用地補償を進める。 	事業継続が妥当

4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)

自己評価内容	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・現況田んぼ部分で道路拡幅により高低差が生じる箇所について、土留め式自由勾配側溝を採用することでコスト縮減を図る。 ・事業実施における支障はなく、代替案の立案は困難。 	事業継続が妥当

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など

- ・地元【堀川南自治振興会】から拡幅要望を受けている。
- ・令和3年度通学路合同点検の結果、富山市通学路交通安全プログラムの危険箇所対策必要箇所として抽出されている。

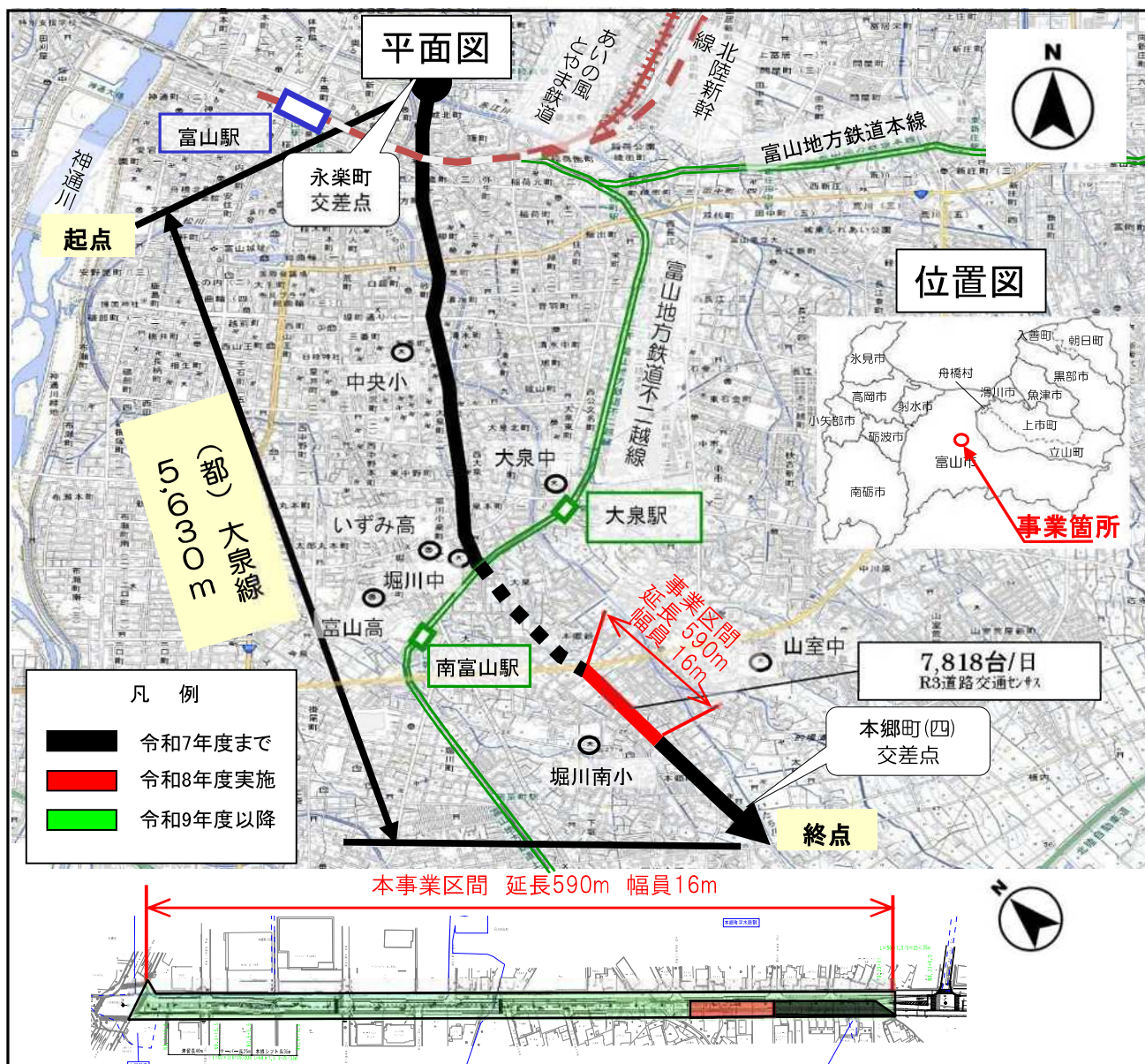
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響

- ・車道幅員が狭く歩道が整備されていないことから、自動車と歩行者が輻輳するため、安全で円滑な道路交通が確保できない。

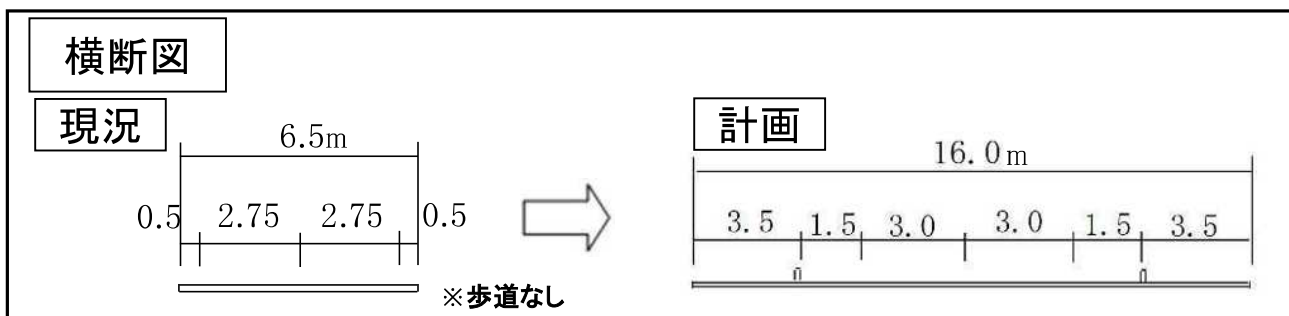
自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・富山市の人口は減少しているが、主要な環状道路を結び、富山市の南北連絡強化による地域の活性化、さらに、沿道地域の安全で円滑な道路交通を確保する上で事業効果は高い。 ・コスト縮減に努めながら事業進捗を図り、早期事業効果発現を目指す。 ・地元からの要望も強く、用地買収も順調に進捗しており、事業の支障となるものはなく、事業継続が必要。

24 街路事業 都市計画道路大泉線(富山市本郷新～本郷町)



主な工種 (全体事業量)	事業区間 延長590m	R8までの進捗率	
		事業量 ベース	事業費 ベース
用地補償 (3,764㎡)	<div style="width: 14.1%; background-color: green;"></div> <div style="width: 4.9%; background-color: red;"></div> <div style="width: 1.0%; background-color: black;"></div>	14.1%	19.8%
改良・舗装工 (590m)	<div style="width: 15.3%; background-color: green;"></div> <div style="width: 0.2%; background-color: red;"></div>	15.3%	15.5%



整備前の状況

①



②



現況写真(隣接区間の状況)

③



④

